

# 平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 折尾東 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

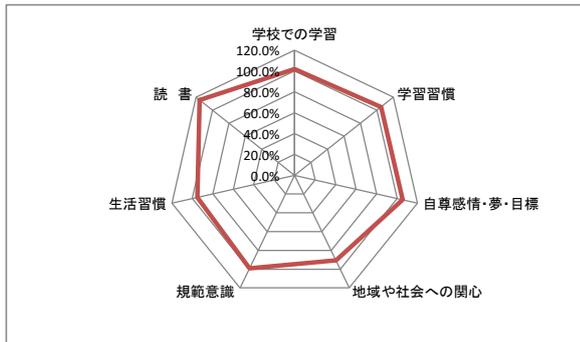
#### (1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.1	65	9.0	64
全国	8.9	64	9.3	67

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	これまでの地道な努力が功を奏し、今年度は全国平均を上回っている。書く能力の問題は苦手としている本校の子どもたちであるが、伝え合いの練習をしてきた成果が出てきたのか、本や文章全体を効果的に読む取ることができていた。これからも、いろいろな場面で書く活動を取り入れて力を伸ばしていきたい。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読むことができるかどうかをみる問題の正答率は高かった。	
	努力が必要な問題	目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く問題は、正答率が低かった。普段からの指導が必要である。	
算数	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均を下回っており、続けて努力が必要である。苦手としている説明等を記述する問題については、説明で「長方形」「三角形」を明確に示すことができていないことが課題として残った。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取る問題の正答率は高かった。	
	努力が必要な問題	示された図形の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述する問題の正答率が低かった。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析	
・「自分には、よいところがあると思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問では 肯定的回答が高く、自己肯定感・自尊感情をもつことができていると考えられる。	
・「授業では課題に対して自ら考え自分から取り組んでいたと思いますか」という質問では全国平均を上回っている。	
・「学級の友達の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」「読者は好きです」と答えた児童が今年度は全国平均を大きく上回っていた。話し合うこと、読むことの楽しさや良さを実感させる授業に、取り組んでいる成果がでている。	
・「朝食を毎日食べていますか」との質問には、肯定的回答が全国平均と並んできた。	

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・日々の授業の中で、考え、表現する(書く)活動を確保するように努める。
- ・「授業改善シート」を効果的に活用し、「1単位時間の中に『話し合う活動』と『書く活動』」を意識するようにしていく。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・家庭学習について、「折東っ子スタンダード家庭編」に示されている、低学年15分、中学年30分、高学年45分以上の学習時間の習慣が定着するように、学年通信・学校だより等で引き続き家庭に周知していく。
- ・家庭の協力により、毎日朝食を食べる習慣が定着してきた。生活のリズムも整い、学習にも力が発揮できる。ゲームをする時間、スマホなどでネットに触れる時間が全国平均よりも多いため、保護者に懇談会や学校通信等で周知していく。